

歌碑

文化

寺社

# 南阿蘇って

石橋  
いいな  
板碑

点在する文化財を訪ねて

(随時掲載)

神体

伝統

歴史

## 凛々しさで威厳があり

前は暑い暑いとボヤいて  
いましたが、天候は一変しま  
したね。

毎日毎日雨がかりで、農作  
物の日照不足が心配されるま  
でになり、今年の夏はどこか



仏像としては小さいですが……  
(くまモンの高さは約50センチです)

へ行ってしまったようです。

9月に入り、カラッと晴れ  
た日を選んで栃木観音堂を訪  
ねてみました。

途中でフツと空を見上げる  
と、きれいなうろこ雲が澄み  
切った青空に整然と浮かんで  
いました。

直感的に秋を感じ、そのあ  
と思いついたのが食欲の秋。

しかし、わが身に置き換え  
てみたとき、季節が変わった  
からといって食欲が落ちるな  
んてことはなく、夏肥え、冬  
太りの連続だったような気が  
します。

それはさておき、前回まで  
の勉強でみなさんはかなり知  
識が深まっていますよ。

仏像は大きく4部門に大別  
され、如来や観音像のそれぞ  
れ単体でも安置されますが、  
複数で安置される場合は位に  
応じて本尊を守護する形がと  
られていましたね。

思い出してみますと、釈迦  
如来でしたら文殊菩薩と普賢  
菩薩が脇侍となり、阿弥陀如  
来には勢至菩薩と観音菩薩が、

薬師如来には日光菩薩と月光  
菩薩が脇侍として安置されて  
いましたね。

同様に菩薩の部から私たち  
が一番身近な観音菩薩を安置  
する場合は、その下の位から  
不動明王が、さらにその下の  
位から毘沙門天が守護する形  
と云いましたよね。

もちろん、必ずこの形でな  
ければいけないということ  
はないわけで、菩薩像の横に如  
来像が安置されていることも  
多々あります。

なかには、何もそこまで区  
別して見ないでも仏教美術の  
作品として、また芸術作品の  
一つとして鑑賞すればいい  
じゃないかという人もいらっ  
しゃるでしょうが、仏像が作  
られるとき、如来は如来らし  
く、菩薩は菩薩らしく、明王  
も天もそれらしくノミがふる  
われたはずですよ。

ましてや完成した仏像の前  
で、長い長い時間が流れるう  
ちに一体どれだけ私たちの祖  
先が願いを託してきたか、そ  
れを思うとき決しておろそか

にできないものがありますね。  
南阿蘇っていいな、遠い祖  
先からこんなにたくさんの方  
化財を残してくれていますか  
ら。

さて、栃木観音堂に行って  
まいりました。

ここは地域のみなさんの理  
解が深く、貴重な文化財を守  
るためということで御堂には  
頑丈な鍵がかけられています  
た。

私が訪ねたときには、たま  
たま近くに住む村教育委員会  
の方が奔走していただき、扉  
を開けていただきましたが、  
もしみなさんの中で行かれる  
場合は事前に教育委員会か地  
元の責任者の方へご連絡され  
ることをお勧めします。

御堂の前には、西国阿蘇三  
十三ヶ所観音霊場巡りの第33  
番札所と記されており、ここ  
が最終寺となります。

そのほか近くには、この十  
一面観音像はもともと栃木  
泉小山旅館そばにあったもの  
をこの地に移したものと案  
内されています。

扉を開けると正面中央に十  
一面観音坐像が鎮座されてい  
ます。

江戸時代に鑄造されたとい  
うことで、頭のてっぺんにあ  
る頂上仏面からその下に広が  
る十一面のお顔まで忠実に作  
られており、流れるような衣  
とともに均整の取れたお姿に  
なっています。

高さは、そばにいくくまモ  
ンと同じくらいに見えますか  
ら約50センチほどでしょう。

今までご紹介した仏像の中  
では小さい方ですが、黒光り  
するお体と凛々しいお顔には  
威厳さえ感じました

では、これまで仏像に対し  
ての深い勉強は今回までに  
しまして、次回からは気楽に  
仏像探訪を楽しみましょう。  
要所が来ればその都度説明  
していきますので、次回も楽  
しみにしてください。

「記事と写真」

県文化財保護指導委員

笠野 次雄